



DOCTORS 2012

注目の名医 整形外科医編

院長 和田 誠

わだ・まこと ●1994年、奈良県立医科大学医学部卒業。同年、同大学整形外科教室入局。その後、奈良県立奈良病院、奈良県立医科大学付属病院、奈良県立救命救急センター、医仁会 平井病院、松阪中央総合病院、大台厚生病院などで研鑽を積む。2004年、わだ整形外科クリニック開院

制のリハビリ
治療に力を注
いでいる。「動
作チェックや
フォームチェッ
クを行って、ス
ポーツ障害に
至った過程を
しっかりと分析
し、その治療
からスポーツ

わだ 整形外科クリニック

スポーツ障害のトータルケアを実践 リハビリにチーム医療で取り組む

チーム医療で行う スポーツ障害の治療

大阪府枚方市のわだ整形外科クリニックは、スポーツ障害の治療とリハビリに力を注ぐクリニックだ。「新興住宅地として知られるこの地域は、少年野球や少年サッカー、ラグビーなどのスポーツが盛んに行われており、野球肘をはじめ、サッカーをする児童に多いグロインペイン症候群、オスグッド病など成長期特有のスポーツ障害が非常に多いです」と和田誠院長は語る。治療の際に重点を置いているのが、正確な診断ときめ細やかな運動器リハビリテーションだ。近年では、レントゲンに写らない軟骨まで写し出す超音波診断機器を導入して早期の軟骨障害を診ているほか、理学療法士によるマンツーマン体

同院の看板であるリハビリは、理学療法士も診断から加わっているのが大きな特徴だ。まず、医師が正確な診断を行った後、それに基づいて理学療法士が動作チェックを行い、他の関節からの影響がないかなどの運動連鎖の評価を行う。それが医師にフィードバックされ、患者一人ひとりの個別プログラムが組み立てられる。「手術・治療しかない

優秀な理学療法士による 充実したリハビリ

復帰、コンディショニング指導、再発予防までを理学療法士とのチーム医療で行っています」と和田院長は話す。理学療法士のもとで、適切なストレッチや正しいフォームを学べば、柔軟性が身に付き、体幹が鍛えられる。これは、ケガをしにくくなるだけでなく、スポーツ自体のパフォーマンス向上にも繋がっていくのだという。



リハビリで早期スポーツ復帰を目指す



理学療法士によるフォーム指導の様子

思われる症例でも、疼痛の原因が骨の変形ではなく、筋や腱もしくは、骨付着部による場合があり、リハビリで症状が改善することもめずらしくありません」と和田院長は熱く語る。

チーム医療に積極的に取り組んでいる同院では、優秀な理学療法士を育てていく環境作りを重視しており、定期的に大阪府理学療法士会の会長である大工谷新一氏や理事である熊崎大輔氏による実地指導やケースカンファレンスを活発に行っている。

取材／秋元愛

INFORMATION



診療科目：整形外科

受付時間：月～水・金

9:00～12:30

16:30～19:30

土 9:00～13:00

〒573-0163 大阪府枚方市長尾元町2-1-21

TEL.072-857-0515

http://wadaseikei.com/